

農業と経済

1・2

合併号

2019
January / February
vol.85 No.1

二〇一九年一月一日発行・第八五巻 第一号（毎月一回）日発行
ISSN0291-0912



特集

農業・農村女性の未来

—「農業女子」をこえて

第Ⅰ部

何が問題か

—いま女性をとりまく状況は？

第Ⅱ部

未来をひらく 農業・農村女性



昭和堂

「二二 ちゃん農業」（じいちゃん、ばあちゃん、かあちゃん）と呼ばれて久しい。じいちゃんは亡くなり、ばあちゃんの介護にかあちゃんは疲弊し、息子や娘たちは出て行ったきり。後継者のいない農家が増えた。日本創成会議の示す「消滅可能性自治体」にほとんどの農村部は入る。

そのなかでも元氣な農村がある。後継者が就農し、息子には配偶者がいて、子どもが生まれている。そんな農村の共通点は女性が元氣なことだ。

日本の地方は女の働きなしでは夜も日も明けない、といわれてきたのに、女に意思決定権がなかった。嫁に至っては牛馬の扱いだった。そんな土地柄で、農業委員に女性が増えてきたのは90年代後半だっただろうか。どんなひとたちが？と尋ねると、へえと驚く答

えが返ってきた。50年代、60年代の農村で生活改善運動に参加していた若嫁たちのその後、だという。なるほど40年経てば、若嫁も老いる。かつて地域で発言した女たちは、一生黙らないのか、と感心したことがある。

農業委員に比べて農協役員にはまだ女性が少ない。農協役員の女性比率は7%、衆議院議員の女性比率9・5%よりも低い。農協は日本有数のメガバンク巨大な資産と権力を持っている。女性が新しく事業をやるうとすると、抵抗勢力が農協だと聞いた。一次産品ばかりをつくついても限界がある。六次産業化（二次・三次を足して六次という）して加工度を上げると付加価値がついて利益率が上がる。加工食品製造や農家レストラン、それに産直とツーリズムを合体した「道の駅」などの事業に、知恵と工

夫で取り組んでいるのは女性たちだ。

フードジャーナリストの金丸弘美さんは、『田舎の力が未来をつくる！』（合同出版、2017年）で各地の成功例を紹介している。あるとき、金丸さんに、「担い手に女性はいませんか？ 女性に焦点を当ててルポしては？」とそそのかした。そうしてWAN（ワイメンズアクションネットワーク）の連載、「ニッポンはおいしい！」がはじまった。その金丸さんの弁がよい。「オモテに出てくるのは男性ばかりだけど、実際に現場でこまやかに継続につながる仕事をしているのは女性。それに女性の方が話もおもしろい」。夫の影に隠れていた女性を引っ張り出すと、連載は生き生きと動き出した。主役はほんとに女だったのだ。

URL <https://wan.or.jp/article/show/7969>

農業と女性

東西南北

上野千鶴子

（東京大学名誉教授）